

VI 危機管理マニュアル

1 危機管理の心得

※ 津波避難三原則

- | | |
|---|-----------------------------|
| ① | 想定にとられるな→自然現象としてあらゆる事態が起こる。 |
| ② | 最善を尽くせ →その状況下でできる限りの行動をとる。 |
| ③ | 率先避難者たれ →集団心理が働き多くの命を救う。 |

※ 津波てんでんこ→人にかまわず逃げろ

- | | |
|---|--|
| ○ | 「てんでんこ」は、「てんでんばらばら」の意味で、「人にかまわず必死で逃げる」ということ |
| ※ | 家族の中でお年寄りや小さい子を誰が守るのかは、普段から確認しておく。 |
| ※ | 学校では、避難訓練を通して避難の仕方を確認しておく。教職員は、全ての児童を無事に避難させる。 |

2 学校における危機管理

(1) 危機管理の目的(何を守るのか)

- ① 児童の命を守ることであり、児童と教師との信頼関係をつなぎとめ、維持していく。
- ② 学校の正常な運営、すなわち、児童や教職員の心理的動揺を防ぎ、学校を落ち着いた状態に置く。
- ③ 学校に対する社会的信用・信頼を守る。

(2) 危機管理の段階

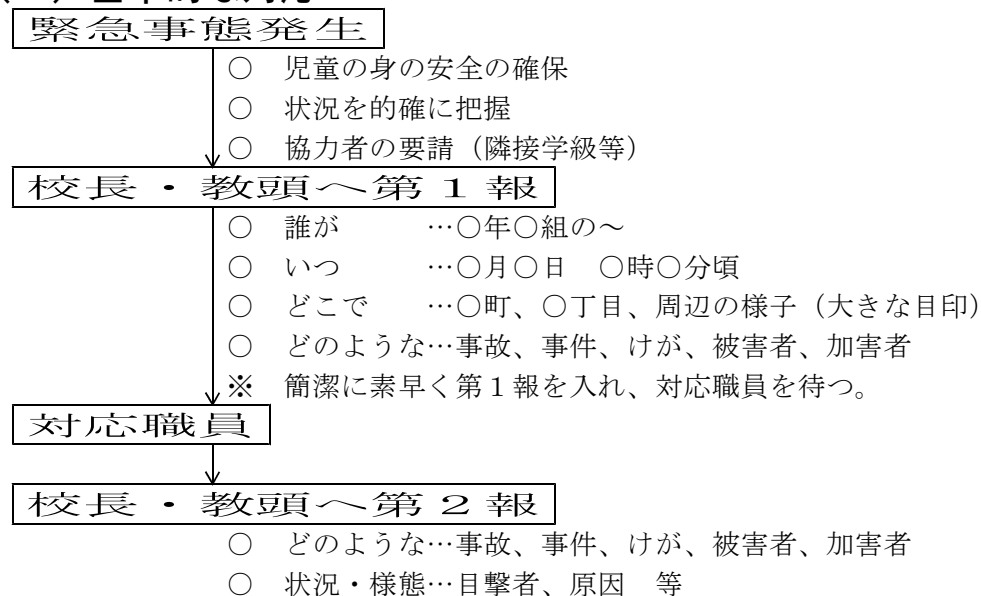
- ① 予防的対応
 - ア 事故・事件が起こらないよう日常の学校経営・学級経営を行う。
 - イ 日常の児童の観察記録を行う。小さな異変やサインを見逃さない。
- ② 発生時の対応
 - ア 生じた危機の確認・調査→正確な情報（原因、状態等）
 - イ 危機管理の方針→手段の選択、組織の編成等
 - ウ 危機の処理→「迅速に」「的確に」「あらゆる場面」「誠意を持って」
 - エ 終結の明確化→組織運営の正常化

(3) 危機管理システム

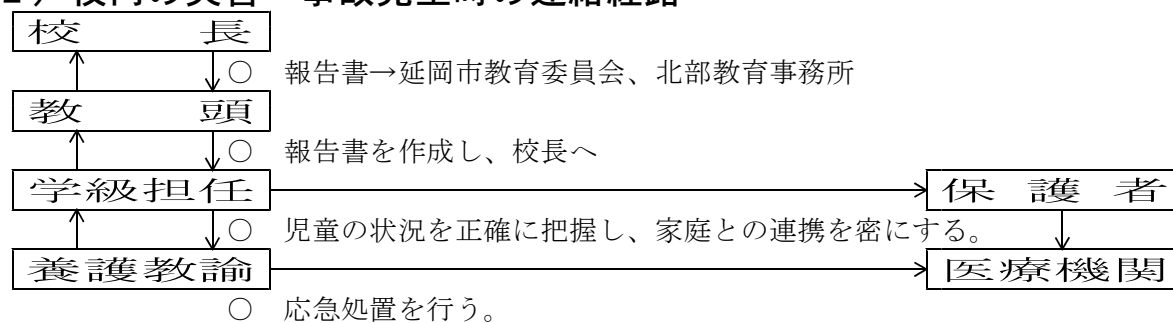
- ① 報告すべき事項
 - 5W1H（いつ・どこで・だれが・なにを・なぜ+どのように）
 - 「ほうれんそう」→報告・連絡・相談の確実な実施
- ② 報告システム
 - 現場（発見者・担任）→養護教諭・教頭→校長の指示→対応
 - ・ 報告が早いほどリスクが少なくなる。
 - 教頭→救急車→教育委員会
 - マスコミ対応は、窓口を一本化

3 基本的な緊急連絡体制

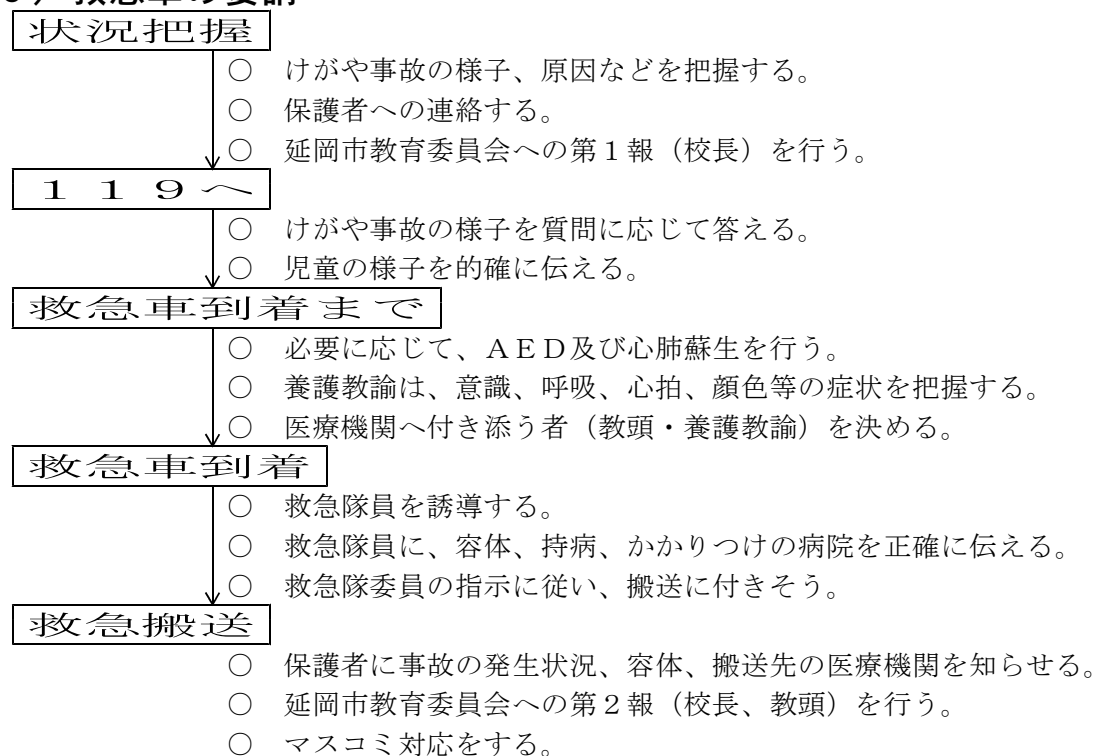
(1) 基本的な対応



(2) 校内の災害・事故発生時の連絡経路



(3) 救急車の要請



4 実践編

(1) 台風

① 臨時休業等

ア 台風の勢力や進路予想を基に、校長、教頭、教務主任、生徒指導主事等で協議する。
場合によっては、PTA会長も同席する。

イ 臨時休業等の連絡は、「一ヶ岡小学校メール連絡（マチコミ）」で行う。

ウ 下校時刻を繰り上げる場合は、集団下校を原則とし、地区担当職員が引率する。学童保育ができない場合は学校で待機させ、保護者に迎えの依頼をする。迎えの際は、必ず引き渡しカードを使用する。

② 学級での指導

ア 増水した河川や側溝など、危険な場所に近づかない。

イ 切れた電線等に絶対に触れない。

(2) 火災

① 本校の避難訓練に沿って避難を行う。その際、教室の窓を閉めたり、ハンカチで口を押さえたりさせる。また、「お・は・し・も」を守りながら、身を低くして運動場に避難することを指導する。

② 学級担任以外の職員が、逃げ遅れた児童がいないかどうかの確認を行う。

③ 人数及び事故の有無の確認を行い報告する。

○ 学級担任→学年主任→教頭→校長

○ 報告の仕方「〇年〇組 在籍〇名 欠席者〇名 異常なし」

④ 児童の安全が確認された後、自衛消防組織に基づき活動を行う。

(3) 地震・津波

① 在校中の場合

ア 机の下にもぐり、机の脚をしっかりと持ち、頭部を保護し、姿勢を低くすることを指導する。

イ 揺れが収まったら、頭部を保護しながら第1次避難場所（運動場）へ避難する。その際、児童の安全確認及び負傷者の確認を行う。

津波警報発令

ウ 第2次避難場所（ファーツリーゴルフクラブ）へ避難する。

○ 避難経路に従い、安全かつ迅速に避難する。

○ 道路を横断する場所では、必ず職員が誘導を行う。

エ 第2次避難場所（ファーツリー）では、全校朝会の隊形で整列する。

オ 人数及び事故の有無の確認を行い報告する。

○ 学級担任→学年主任→教頭→校長

○ 報告の仕方「〇年〇組 在籍〇名 欠席者〇名 異常なし」

カ 学校災害対策本部の設置

○ 被害状況を把握する。

○ 集団下校か引き渡しかの判断する。

○ 延岡市教育委員会への連絡する。

② 登下校中の場合

- ア ブロック塀や自動販売機から離れ、頭部を保護し、倒れてくる物がない安全な場所で身を伏せさせる。
- イ 揺れが収まったら、学校か自宅の近い方へ避難させる。
- ウ 学校では運動場に避難させる。帰宅した児童は、できるだけ早く学校へ連絡させる。
- エ 学級担任は、児童の所在を確認し、校長に報告する。

津波警報発令

- オ 第2次避難場所（ファーツリーゴルフクラブ）へ避難する。
 - 学級担任は、非常持ち出し袋を持って避難する。
 - 避難経路に従い、安全かつ迅速に避難する。
 - 道路を横断する場所では、必ず職員が誘導を行う。
- カ 第2次避難場所（ファーツリーゴルフクラブ）では、全校朝会の隊形で整列する。
- キ 人数及び事故の有無の確認を行い報告する。
 - 学級担任→学年主任→教頭→校長
 - 報告の仕方「○年○組 在籍○名 欠席者○名 異常なし」
- ク 学校災害対策本部の設置
 - 被害状況を把握する。
 - 集団下校か引き渡しかの判断をする。
 - 延岡市教育委員会への連絡する。

③ 校外学習中の場合

- ア 地形や状況を判断して、児童に安全確保の指示を行う。
- イ 揺れが収まったら、安全場場所へ避難させる。
- ウ 児童の安全確認及び負傷者等の把握を行う。
- エ 学校に状況を報告し、指示を受ける。
- オ 学校から保護者へ連絡を行う。

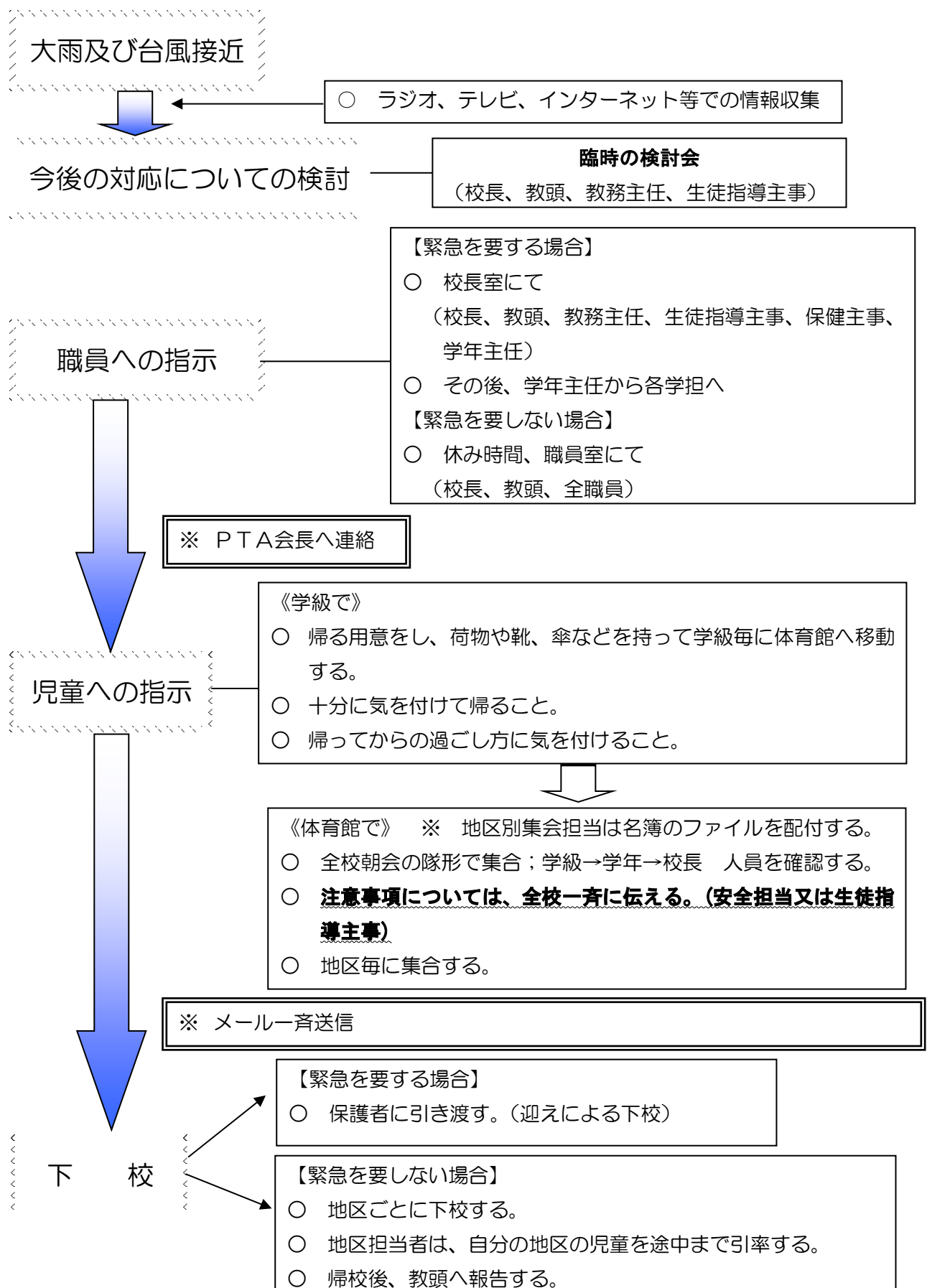
④ 休日等の場合

- ア 頭部を保護しながら、机の下や倒れてくる物がない安全な場所で身を伏せることを指導しておく。

津波警報発令

- イ 神社山、ファーツリーゴルフクラブ、県営住宅等の最上階（5～6階）へ避難することを指導しておく。
- ウ 管理職は直ちに学校に赴き、被害の状況を把握する。大きな被害が発生した場合には、職員を参集させ、児童の被害状況把握に努める。

(4) 大雨及び台風接近時におけるアクションプラン



(5) 不審者侵入

- ① 1 次的対応
 - ア 第1発見者が声をかける。「何かご用ですか。」
 - イ 正当な理由がない場合は退去を求める。退去してもしばらく様子を見る。
- ② 2 次的対応
 - ア 退去をしない場合は、近くの児童に職員室に知らせるよう指示する。
 - イ 非常事態を周りに知らせる。(大きな声、防犯笛、火災報知器、ガラスを割る等)
 - ウ 職員は児童と不審者の間に立ち、児童を避難させ安全を確保する。
- ③ 3 次的対応
 - ア 情報を得た職員は、すぐに現場へ急行する。その際、さすまた、ほうき等を持参する。
 - イ 事務室はすぐに110番通報を行う。
 - ウ 男性職員で不審者を囲み、児童に近づけさせない。その間、女性職員で児童を体育館に避難させる。
- ④ 4 次的対応
 - ア 児童の心のケアや保護者等への説明する。
 - イ 再発防止の対策を実施する。

(6) 声かけ事案

- ① 登下校中
 - ア 日常的に校区内の危険な場所(暗い・人通りが少ない・交通量が多い)等の状況を把握しておく。
 - イ 各学級で声かけ事案や不審者事案等に対しての指導を随時、行っておく。
 - ウ できるだけ、一人で登下校しないようにする。
 - エ 帰宅時刻をきちんと守らせる。
- ② 休日等
 - ア 公園等で一人遊びをしないようにさせる。
 - イ 区長、民生児童委員等の方に協力を依頼する。

(7) 不審電話

- ① 児童への指導
 - ア 体のことなどを聞かれた場合は、「親がいないので分かりません。」と言って切る。
 - イ 友達の電話番号を尋ねる電話などは、大人と代わる。大人がいない場合は、「分かりません。」と言って切る。
 - ウ 不審な電話があった場合は、必ず保護者に伝える。また、保護者より学校にも連絡するようにする。

(8) いじめ

- ① 誠意をもって迅速に対応する。
- ② 管理職に訴えがあった場合は、学級担任等から事実の確認を行う。
- ③ 該当児童からの事情聴取する。
 - ・ いつ、誰が、誰に対し、なぜ、どのような方法で行ったか詳しく聴き取る。
 - ・ 必要に応じ、管理職も事情聴取に参加する。
- ④ 必要に応じ、延岡市教育委員会に報告する。

(9) 万引き

- ① 学級担任及び生徒指導主事が事実の確認を行う。
- ② 該当児童からの事情聴取する。
 - ・ いつ、誰が、どこで、なぜ、どのような方法で行ったか詳しく聴き取る。
 - ・ 必要に応じ、管理職も事情聴取に参加する。
- ③ 保護者への連絡を行う。
- ④ 店舗への謝罪をする。
 - ・ 必要に応じ、学校も謝罪を行う。

(10) 火遊び

- ① 日常的な指導
 - ア 火災が原因で命が奪われたり、大切な財産がなくなったりするなど、取り返しのつかない事態になる。
 - イ 家にあるライターやマッチに触ったり、持ち出したりしない。

(11) 不登校

- ① ケース会議等を開催し、学級担任の役割や指導の方針を明確にする。
- ② 該当児童や保護者との信頼関係づくりに努める。
- ③ 保護者との面談を行うとともに、関係機関との連携を図る。
- ④ 登校刺激を行った方がよい場合は、機会あるごとに行う。
 - ・ 電話、家庭訪問、時間割、行事等への誘いなどを行う。

(12) 給食への異物混入

- ① 迅速な対応
 - ア 学級担任は、献立を把握しておく。
 - イ 異物混入の訴えがあった場合は、直ちに学級の給食を停止し、管理職へ現物とともに報告する。
 - ウ 管理職は、異物を確認し、必要に応じて直ちに給食を停止する。
 - エ 給食を停止した場合は、延岡市教育委員会に報告するとともに、給食調理場にも連絡し、食材等の保存を行う。また、学級担任は健康観察を行い、健康状態を把握する。
- ② 保護者への説明
 - ア 重大な案件の場合は、保護者説明会を開催し、経緯を説明する。

(13) 新型コロナウイルス・インフルエンザ等

- ① 毎日の健康観察を入念に行う。
- ② 高熱がある時は、保健室に連絡し指示を受けるとともに、保護者に連絡を取り、医療機関の受診を勧める。
- ③ 1時間に1回は教室の換気を行う。
- ④ 発症後5日経過、解熱後2日経過するまで登校できないことを保護者に説明する。

(14) 熱中症

- ① 熱中症を引き起こす条件
 - ア 気温が高い イ 湿度が高い ウ 風が弱い エ 日差しが強い
 - オ 激しい運動によって熱が体内に蓄積される カ 暑い環境に体が慣れていない
- ② 熱中症への対応
 - ア 涼しい環境への避難する。
 - ・ 風通しのよい日陰やクーラーが効いている室内に避難させる。
 - イ 脱衣と冷却する。
 - ・ 衣服を脱がせて、体から熱を放散させる。
 - ・ 露出させた皮膚に水をかけて、うちわや扇風機で扇ぐことにより体を冷やす。
 - ・ 氷嚢を頸部、脇の下太ももの付け根に当て冷やす。
 - ウ 意識がはっきりしている場合は、水分や塩分を補給させる。
 - エ 救急車を要請する。

(15) 転落事故

- ① 安全点検の実施と情報共有
 - ア 安全点検を実施し、転落の恐れがある場所について共通理解を行う。
- ② 安全指導の充実
 - ア 学級で転落事故の危険性を認識させ、危険な行動を取らないように指導する。
 - イ 児童が普段使用していない場所で活動する時は、事前に点検を実施する。
 - ウ 暗幕使用時は、窓の開閉状態に注意する。

(16) 水泳等の事故

- ① 安全に関わる確認事項
 - ア プール利用期間前に、排水溝の蓋等を点検する。
 - イ プール利用期間前に、救急救命に関わる研修会を実施する。その際、AEDの使用方法についても熟知しておく。期間中は、AEDをプールに持参しておく。
 - ウ プールを安全に利用できるよう、監視体制を整える。緊急時には、プールから救急車を要請するため、携帯電話を持参する。
- ② 児童への指導
 - ア スタートについては、水中からのスタート指導を行う。
 - イ プールサイドは、絶対に走らないことを徹底する。
 - ウ 児童が個人で水泳や水遊びに行く時は、必ず保護者と同行するよう指導する。

(17) 休憩時間の事故

- ① 校舎内
 - ア 廊下を走ったり、渡り廊下で遊んだりしないよう指導する。
- ② 校舎外
 - ア 熱中症の予防や害虫等の危険性について指導する。
 - イ 危険な場所で遊ばないよう指導する。
- ③ 遊具の利用
 - ア 定期的な安全点検を実施する。
 - イ 遊具の安全な利用の仕方について指導する。

(18) 教員の事故

- ① 交通事故
 - ア 人命を第一に尊重し、病院搬送のための救急車の要請を優先する。
 - イ 110番通報を行う。
 - ウ 校長への報告を行う。
- ② 酒気帯び・飲酒運転
- ③ 個人情報の管理
 - ア 個人情報の入ったUSB等を安易にバッグ等に入れて持ち歩かない。
 - イ 車の中にバッグなどを置いておかない。
 - ウ 職員室の机の上など外部の目の触れるところに個人情報を置かない。
- ④ ハラスメント
 - ア 児童や同僚に対してのハラスメントの防止を図る。
- ⑤ 学校徴収金の適正な管理
 - ア 定期の複数監査を行うことで、不正の防止を図る。

(19) 関係機関等一覧

- | | | | |
|-----------------|---------------|---------------|---------------|
| ○ 北部教育事務所 | 3 2 - 6 1 1 6 | ○ 延岡市教育委員会 | |
| | | ・ 学校教育課 | 2 2 - 7 0 3 1 |
| | | ・ 学校支援課 | 2 2 - 7 2 0 5 |
| ○ 延岡警察署 | 2 2 - 0 1 1 0 | ○ 延岡市消防本部 | 3 3 - 3 3 2 7 |
| ・ 一ヶ岡交番 | 3 7 - 4 1 0 3 | ・ 救急係 | 3 3 - 7 1 1 1 |
| ・ 土々呂駐在所 | 3 7 - 0 6 0 0 | ・ 土々呂出張所 | 3 7 - 0 3 0 9 |
| ○ 延岡保健所 | 3 3 - 5 3 7 3 | ○ 北部福祉こどもセンター | 3 5 - 1 7 0 0 |
| ○ 耳鼻科（県病院） | 3 2 - 6 1 8 1 | ○ 佐藤歯科医院 | 3 7 - 1 9 2 2 |
| ○ 甲斐歯科 | 3 7 - 5 0 0 5 | ○ 中尾内科 | 3 2 - 5 1 1 4 |
| ○ 吉田病院（内科） | 3 7 - 0 1 2 6 | ○ 出北眼科 | 2 6 - 5 2 2 7 |
| ○ きたかた調整薬局（薬剤師） | 2 8 - 5 1 5 0 | | |
| ○ タクシー会社 | | | |
| ・ 第一交通（土々呂） | 3 7 - 0 1 5 2 | | |
| ・ 扇興タクシー | 3 3 - 5 3 5 3 | | |
| ・ 宮崎交通 | 3 2 - 5 4 3 1 | | |
| ・ グリーンタクシー | 3 3 - 5 4 3 3 | | |

(20) 弾道ミサイル発射に係る対応について

【J アラートによる情報伝達と学校における基本的な避難行動の流れ】

① J アラートを介した情報による状況の把握



② 安全な場所を判断して避難



③ 姿勢を低くして頭部を守る

地震避難訓練等で身に付けた行動を生かし、どこにいても自らの判断で安全確保できるようにしておく

① 学校にいる場合

ア 校舎内

地下室や窓のない部屋にすぐに移動することが難しい場合は、窓からなるべく離れて床に伏せたり、机の下に入ったりして頭部を守る。

イ 校舎外

校庭での授業中の場合は、遮へい物のない校庭の中心ではなく、物陰に身を隠すか、その場で地面に伏せて頭部を守る。

② 校外活動中の場合

ア 校外活動に際しては、学校として、計画の段階で様々な危機事象の発生も想定しておく。活動場所での情報伝達方法や危機事案が発生した場合の避難について、事前に確認しておく。特に、野外での活動の際は、引率者は、携帯電話等の情報ツールを携行することはもとより、情報収集の手段を確保しておくことや、事案が発生した場合の避難を念頭においた下見を行う。

イ 児童に対しては、こうした検討を踏まえ、例えば、自由行動中など教職員がそばにいない際の避難行動や連絡手段について、事前に指導しておく。

③ 登下校中の場合

ア 登下校中は、地震発生時と同様に、そのとき入手した情報に基づき児童生徒等が自らの判断で冷静に行動できるよう、事前に指導しておく。

イ 屋外スピーカー等から警報が発せられる場合、聞こえてくる音を注意深く聞く。

ウ 電車やバス等、公共交通機関においては、車内に流れる情報や乗務員の指示を注意して聞き、その指示に従う。

④ 児童生徒等が自宅等にいる場合

ア 安全確認が取れるまで待機し、身の安全を確保する。

イ 上記の行動ができるようあらかじめ指導しておく。

ウ ミサイル発射情報が伝達された場合の登校時間の変更や臨時休業などの学校からの情報伝達の方法や安否確認の方法についても、周知しておく。

(21) 竜巻に係る対応について

竜巻注意情報が出されたら、校内放送等で注意喚起を図り、以下のように対応する。

【学校で】

① 校舎内にいる場合

ア 目の前に竜巻が見えている場合（逃げる時間的なゆとりがない場合・10秒程度）

- ・ 帽子を被る。
- ・ 机の下に潜り、机の脚を両手でしっかり握る。
- ・ ガラス窓からできるだけ離れる。
- ・ 壁に近いところで身を伏せ、避難姿勢をとる。

イ 竜巻が見えている場合（逃げる時間的なゆとりが少しある場合）

- ・ 近くの教室等へ駆け込む。
- ・ 可能であれば1階教室へ避難する。

ウ 遠く竜巻が見えている場合（逃げる時間的なゆとりがある場合）

- ・ 窓を閉め、鍵を掛ける。
- ・ カーテンを閉める。
- ・ 出入り口の扉やドアを閉める。
- ・ 余裕がありそうであれば体育館へ移動する。
- ・ 体育館までいけない場合は1階教室へ避難する。

② 屋外にいる場合

- ・ 体育館に避難する。

【登下校中に】

① 登下校する前

- ・ 荒天（雷雨や強風）時には登下校を控え、天候回復を待つ。

② 登下校中

- ・ 屋根瓦などの飛ばされてくる物に注意しながら、素速く避難する。
- ・ 近くの頑丈な建物（ビルなど）に避難する。
- ・ 建物がない場合は、側溝など窪みに身を伏せる。※倒壊する危険性があるため、電柱や樹木には近寄らない。

【家で】

- ・ ガラス窓から離れる。
- ・ 2階から1階に降りる。
- ・ 壁に囲まれた狭い場所（トイレ・押入・階段など）で身を伏せ、避難姿勢をとる。
- ※ 可能なら、家より頑丈な建物（ビルなど）に避難する。

(22) 雷に係る対応について

【学校で】

① 校舎内にいる場合

- ・ 窓から離れる。
- ・ 電気機器から離れる。

② 屋外にいる場合

- ・ 雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてくるので、野外活動をしている場合、速やかに屋内に避難する。※校庭にいる場合は、校内放送で避難指示する。

【登下校中に】

① 登下校する前 ・ 雷は30分程度で収まることが多いので、家や学校で待機する。

※ 特に、下校時の雷雲接近に関しては、無理に下校させず、教室また体育館で全校待機させ、その旨一斉メール配信（マチコミ）にて保護者に知らせる。迎えが可能な保護者には、車での下校を依頼するほか、全員が安全に下校できるような手立てを講じる。

② 登下校中

- ・ 雷は30分程度で収まることが多いので、近くの建物で雨宿りをする。無理に移動したり帰宅したりしない。

【外遊び中に】

- ・ 雷は高いところに落ちやすいので、立ち木から離れ、近くの建物や車等に避難する。近くに避難する場所がない場合は、平らな場所で身を伏せる。